

5班一泊旅行★



里だより

No.381

令和5年10月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579

敬老会

九月
十四日



十月号もくじ

(ページ)

施設長より……………1

サビ管より……………2

主任より……………3

職員より・調理場より・

サービス向上委員会より……………5

行事報告……………6

行事予定・

ありがとうございました・

編集後記……………7



施設長より

施設の顔



コロナが5類になり四ヶ月が経ちましたが、コロナやインフルエンザも一定の発症者数を保ちつつ秋を迎えました。当施設でも単発的に発症者が出ていますが、他施設では集団感染の対応で苦慮されているところもあると聞き及んでいます。既に、十一月のインフルエンザ予防接種は期日を設定済みで、今後はコロナワクチン接種の予定を調整していきます。

さて、「会社の顔」などという言葉を目にします。では「施設の顔」とはどのような、誰の事なのでしょう。理事長？施設長？人では無くて、来訪者が出入りする玄関を思い浮かべる方もいるでしょうか。外部の方と携わるもの、見られる人、全てが「施設の顔」になると思っています。施設長会などでは、施設長であったり、もし欠席した場合は、代理で参加したスタッフがそれになります。ニュースで見るとような不祥事が起きた場合や苦情があった場合は、受付窓口や解決責任者になるでしょうか。他にも施設を訪れた際に、施設の第一印象は玄関での事務スタッフの対応。利用者さんのご家族からは、担当職員や班主任・サビ管。実習生などの受け入れには現場スタッフ。来訪者には応じたスタッフと言ったところでしょうか。その個人の顔が「施設の顔」になるため、何かしら問題があった場合は、個人の問題だとしても、施設全体として見られがちです。もの見方は人それぞれと思いますが、全国チェーン店で起きた不祥事についても、例え個人の問題だとしても、「他のお店でも同

じような事が起こっているのでは？」「組織ぐるみで行っているのでは？」と思ってしまうようなものです。

随分昔、大手スーパーに勤めていた知人から聞いた話です。施設利用者さん数名と引率のスタッフだと思われるお客さんも多く見かけるそうで、あるグループのスタッフは、商品を一緒に手に取り、楽しそうに話をしながら、笑顔も朗らかに買い物をしている。別のグループのスタッフは、利用者さんの後を気力なく付いていくだけのような足取りで、利用者さんが話し掛けても空返事、うわの空。前者は見ているだけで、ほのぼのとする状況。後者は買物は楽しみのはずなのに、利用者さんはお店に来て楽しいのだろうか。施設に戻ってもスタッフはあのよな態度なのだろうか・・・と胸に何かつかえるものが残ったとのことでした。当然のごとく、外に出た時だけよそ行きの態度ではいけないことは百も承知です。また、普段からできていない事は、どんなに取り繕っても、ぼろが出るものです。特に言葉などは最たるものだと思います。

先日、スタッフの一人がこの様な事を言っていました。「利用者さんの服は個人の好みもあるかもしれないが、外出着とまではいかなくとも、緊急通院をしたり、突発的な事が起こったりした際に、外部の人が見てもおかしくない、笑われない服を着ていただきたいし、その支援をするのが職員」。有り難い話だと思いつながら、やはり、利用者支援を行う事業所としては、利用者さんから見ただけ「施設の顔」は、利用者さんに接する全ての職員だと感じた一件でした。

誰が見てもほのぼのする「施設の顔」が増えますように。

施設長 松永一博

サビ管より

新型コロナウイルスやインフルエンザの流行もあり、引き続き、気を緩めることは出来ない状況にあります。利用の形態、利用者さんの過ごし方等、出来る限りご希望に添える状態に落ち着いてきたかと思えます。

利用者さんの実習や体験もそのひとつで、施設の概要をご理解いただき、事業所の見学を踏まえ、前向きに対応させていただいております。近年は支援学校の生徒さん方の実習が増えてきたこともあり、ご本人の将来を見据え、実習を重ねながら、慎重に進路を考えられていることがわかります。

利用開始時は、自分たちが初めて仕事に就いた時と同じように、見ず知らずの環境へ飛び込むことによる不安や戸惑いがとても大きいものと思います。そのような不安や戸惑いをくみ取りつつ、有意義な実習や体験にするためにも、ご本人の状況確認は当然のこと、ご本人、ご家族のニーズも確認し、十分なアセスメントをとることが非常に重要です。

一方、事業所としても実習先として選んでよかつたと思われるような魅力がなければいけません。事業所における受け入れ体制の整備やサービスの向上、並びに職員スキルの向上も重要となります。さらには、人と人が互いに支えあい、利用者さんの自己実現を目指して方向性を共にしていくことが何より大切だと考えます。

日常を考える中で、利用者さんから、職員の支援、事業所の



体制等、現状に改善を望む声が噴出したらどうなるだろう、揃ってつくしの里を辞めたいと言われた場合にはどうなるだろう、職員の支援はサービスを高めるための支援、満足を得られるための支援となっているだろうか、十分なサポートと信頼を得ることが出来ているのだろうかと考えたりします。

テーマを決めて協議し、検討を要する際には、立ち止まって考えることで、大切にしなければならぬことに注目することが出来ます。しかし、本来それでは不十分で、日々の変化を見逃さず、私たちの支援、言動、一つひとつが利用者さんの自己実現に結び付く毎日でなければならぬと思います。

支援課長 今田 有哉

主任より

引き寄せる



皆さんは、口癖や思考の癖がありますか？

気付けばいつも物事が悪い方向に向かっていく、良いことないなあという人。一方で、アイスのアタリが当たった、今日はラッキーだなと小さな幸せが起こる人、いつもどこかキラキラしていて楽しそうに暮らしている人、違いは何でしょうか。

私は近頃、悪いことが起こりやすいと感じています。最近読んだ本の中にこんなことが書いてありました。

①似た物は引き寄せられる。

豊かさや成功について話をしている人が豊かさを引き寄せ、愚痴や文句を言っている人が似たものを引き寄せる。自分が出した波動と共鳴したものが引き寄せ合う。ポジティブな状態に思考を向けることで、その思考はさらに大きく強くなっていく。すると、さらに実現したいことに意識を向けたくなり、似たような波動を持つ思考・会話・出来事が引き寄せられる。一方、何かが足りないから欲しいと思うと、その不足感や不満の波動が不足感や不満を感じる減少や人を引き寄せてしまう。

②思考は現実化する。

意図する・しないに関係なく、自分が繰り返し考えていることや信じていることが似たものを引き寄せてしまうため、意図して思考を整え、ポジティブな期待を持つ事ができれば、行動する量がずっと少なくてもはるかに満足のいく結果が得られる。

逆に、不平不満や不足、怒りを持っていては、いくら行動しても望む結果は得られない。

③ありのままを受け入れる。

自分と他人の違い、意見の食い違いや生まれ育った環境の差、利害の不一致などを「それもよし」と受け入れること。結果、他人の言動に惑わされることなく、自分のワクワクすることに焦点を定められる。もし、周囲の環境に不満を抱いているなら、それは自分が引き寄せたのであり、そうでない環境を望むなら、自分の心のありようを変えればいいだけ。

現実する力＝人生の創造力であり、「感情」×「言葉・思考（イメージ）・行動」で人生が変化していく。

口癖が変われば人生が変わると聞いたことがありますか？

ただ、言葉の力を最大限に活かすために、どんな感情を込めるかが大切で、込める感情によって同じ言葉でも大きな違いが生まれます。これは、言葉だけでなく、思考・行動も同じで、ネガティブな感情があると本来持つパワーが相殺されてしまうのです。愛のあるワクワクする感情を掛け合わせることが何より大切。

誰かが想像で発言したことに、さらに尾ひれが付いて話が大きくなっていたり、ありもしない話になっていたりしませんか。これは決して良い方向には進まない。想像で話をするのではなく、相手とタイミングを逃さずに対話ができていれば、誤解が生じず負の方向には進まないのではないのでしょうか。そんなことを思っています。

「和を以て貴しとなす」という言葉があります。これには、

「あまり怒らず、和を大切にすること」と「しっかりと話し合
いをおこなうこと」の二つの意味があるそうです。

一つめの意味は「みんなが相手を尊重し合い、認め合って強
調することが何より尊いものだ」という意味で、誰かに失敗や
間違いがあったとしても、その過失を怒ってはならず、協力・
協調・協和が大事だとされています。

二つめの意味は「争いを避けるだけが和を大切にすることで
はなく、安易に妥協せずお互いに納得できるまでしっかりと議論
するべきである」という考え方も含まれており、この場合でい
う「和」とは、同調ではなく、互いに尊重しつつ調和していこ
うとする「協調」が重要だという考え方です。

私たちは何事にも「心地よいか」「心地悪いか」を感じてい
ます。心地よいに越したことはない。いい気分であること以上
に大切なものはないと思うため、人と関わる毎日において、不
満はお互いに伝えて理解しあい、和を大切に、そのために自分
の感情・言葉・思考・行動をポジティブに変換しながら、皆で
心地よく生活できたらと思っています。

主任支援員 中尾 麻里子



施設 PR 委員会 今月の 1 枚！



いきいきグループはプチ夏祭りを開催しました！！

暑さに負けずゲームを頑張りました(^^♪

職員より



見学で来てくれた学生と話す時、私は趣味や部活の話をしをします。加えて、私もつくしの里に7年いるので、少し先輩風を吹かせて学生に話している事があります。それは「自分の強みや趣味を生かして、利用者さんに味わった事が無い事を体験させて下さい。そうすることで自らのアイデンティティが出来上がり、仕事をする上で自信もつきますよ」という事です。今までも音楽が得意な職員が演奏を披露したり、ハロウィンの行事でお化け屋敷を計画したりした職員もいました。

高齢化が進み、利用者さんが外に出て行く機会が少ないのが現状です。私も37歳で若い人の文化には疎いです。しかし世の中はITを使い、その場に行かずとも体験できることが増えています。今後、未知のセンスを身に付けた若い職員が入职し、利用者さんが今まで味わえなかった体験が出来ればと思います。私も若い人に負けず、何か新しい事を始めて、利用者さん達に還元できる様、努力していきたいと思っています。(支援員 尾崎か)

調理場より



里だより9月号で「世界の料理」を紹介しましたが、少しでも海外を感じていただけるようメニューに合わせて、その国の音楽を食事の時に流しています。海外の音楽を探していると馴染みの曲もありますし、その土地ならではの楽器の曲もあり一緒に担当している同じ年齢のM支援員と毎月楽しみながら準備しています。利用者さんにも好評で、音楽好きの利用者Mさんは、メモ紙に次のリクエスト曲をいっぱい書いてこられます。昭和・平成だけでなく最近流行りのグループやK-POPまでとても詳しいのでびっくりします。「僕が見たかった青空、新しい学校のリーダーズ、LESSERAFIM (ルセラフィム)、ENHYPEN (エンハイフン)、TWICE (トゥワイス)、BTS・・・」リクエストがたくさんですので「世界の料理」の日以外の誕生日会や、行事食の時にも皆さんが楽しめる音楽を流したいと思います。(管理栄養士 奈須)

サービス向上委員会より



■ 施設PR【主任支援員 平田・支援員 田中・山内・瀬形】

つくしの里をより多くの方々に知ってもらうために、里だよりの「今月の一枚」の写真選定、SNSの運用、福祉まつりの参加等、施設のアピールになるような様々な活動に取り組んでいます。特にSNSには力を入れています。インスタグラムを昨年5月から運用しており、現在、近隣の福祉施設、利用者さんのご家族、職員、つくしの里に見学に来てくれた学生さんなど80名の方にフォローして頂いています。コメントや「いいね!」いつもありがとうございます。フォローがまだの人は是非フォローして頂けると嬉しいです。また、どこの会社でも起きている事ですが、つくしの里も人材不足な状況です。施設をアピールしながら人材確保委員会と連携して人材の確保に尽力しています。これからもどんどん施設をアピールしてつくしの里を活気づけていきたいと思っています。

(主任支援員 平田)

行事報告

※ 8/21 (月) ~ 9/20 (水) の実施分について報告いたします

★ 生活介護⑤班一泊旅行【8月29日(火)~30日(水)阿蘇内牧温泉 湯巡追荘】

一泊旅行は「熊本地震からの復興(南阿蘇鉄道)」と「with コロナ」をコンセプトに計画しました。コロナ禍、4年間一泊旅行を控えていましたが、今回の旅行で、利用者さんが旅行に向けて健康に気を付けたり、日頃できないことを経験したりする姿を見て、改めて旅行が持つ力を実感しました。高森から立野駅までの長閑な景色に心休まり、広い温泉や岩風呂などを満喫。豪華なバイキングを夕食と朝食に食べて、朝風呂にも入りました。そば打ち体験では、包丁を持つ手が緊張したりと、五感をフル活用しました。

旅のしおりは、利用者さんにお題を説明し事前に描いてもらったものを挿絵にしました。しおりに書いてある利用者さんの言葉や聴き取り内容からも、話し合いや準備、片付けまでを目標や目的を持って、利用者・職員一緒に取り組むことの意義を実感しました。

帰園後、既に利用者さんから来年度の旅のリクエストがありましたので、希望を尋ね、話し合いを重ね、利用者・職員共にモチベーションを高く持ち、楽しみを持って生活できるようにしたいと思います。(主任支援員 長渕)

★ 敬老会【9月14日(木)つくしの里】

行事当日の1週間前くらいから“祝 敬老”といった装飾がちらほら見られるようになり、雰囲気が出ていました。本年度のお祝いの対象者は24名。外部事業所を利用される方や入院中の方を除き、21名に参加して頂きました。和やかなムードのなか、過去の写真を紐解いていくと、まだ元気で他の利用者さんと談笑されている姿、餅つき大会で元気に杵を持っている姿など、若い時の画像を懐かしく見ている方、若かりし頃の様子を初めて見てびっくりした職員など、それぞれの思いに浸っていました。食事は恒例の敬老会メニュー。赤飯・天ぷら・茶碗蒸しと見た目も豪華な内容に皆さん満足されていました。つくしの里が開園して32年。高齢になる方は“増える一方”で設立の経緯・想いを知る方は“減る一方”です。しかし職員が当施設のいきさつを知らないままではいけません。本年度も入社3年目の職員に司会を務めてもらいましたが、司会のノウハウもまだまだ中、設立の経緯や高齢の方を”敬う”という点では多少は理解できたのではと感じます。

9月16日には代表利用者さんと一緒に地区の方々へのお弁当を配りました。事前に案内させて頂いた事で、当日は皆さんご在宅で、スムーズにお弁当を配る事が出来ました。以前は地区の方々をお招きして利用者・職員一同で感謝の気持ちをお伝えしていましたが、ご高齢となり体の負担をかけないよう弁当配布へと変更しました。地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、安心安全な施設でありたいと思います。(支援員 村上)



行事予定



☆ 生活介護④班一泊旅行（丸美屋菊水工場・金魚の館・司ロイヤルホテル他）

期 日：10月4日（水）～5日（木）

内 容：班として初めての旅行です。コロナ禍の疲れを癒し、工場見学や金魚の観賞等を予定しています。



☆ 大津町福祉まつり（大津町役場周辺）

期 日：10月15日（日）

内 容：久しぶりに福祉まつりが開催されます。感染予防のため利用者さんの見学は控えますが、職員が焼きそばを販売します。お時間ありましたら、是非、遊びに来てください！

☆ 秋の里まつり（つくしの里）



期 日：10月26日（木）

内 容：今年度は、利用者さん・ご家族・職員の小規模での開催を予定しています。

「身近な人と楽しむ里まつり」をテーマに、楽しい1日を過ごしたいと思います。

※ご家族様ご来園の際は、施設内駐車場をご利用ください。

※お詫びとおことわり
里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載・確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら、何卒ご容赦していただきたく存じます。

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きました。

【ボランティア】

- ・後藤 弘子 様
- ・田代 栄助 様
- ・藤田 孝志 様
- ・柳瀬 けさみ 様
- ・松木 登代美 様
- ・にこにこ饅頭 様
- ・高宗 信雄 様
- ・田代 千恵子 様
- ・馬原 伸二 様
- ・古庄 晴美 様
- ・村里 和洋 様
- ・トキコロ 様
- ・佐藤 典子 様
- ・カモメ 様



ありがとうございます

今月の掲載分は、

令和五年八月二十一日～

令和五年九月二十日です

編集後記

十月に入り秋も深まる季節となりました。

インフルエンザやコロナウイルスの流行は静かに続いています。つくしの里では、旅行に祭りとお楽しみ秋になりそうです。

同時に、上期の事業を振り返る時期でもありますので、各部署の経過を確認したいと思います。

すまいる(*^▽^*)

